

アメリカシロヒトリの一般的な薬剤防除については下記を参考にしてください。尚、地域によっては効果が著しく低下している薬剤もありますのでご注意ください。

5 月中旬より越冬世代の発生が目立っています。密度が高くなる前に早めに防除を実施しましょう！詳しくは園芸技術課担当までお問い合わせください。

1. 防除時期

- ・ 若齢幼虫期に防除するのが一番効果的である
- ・ 老齢幼虫になると発生密度が高くなり、葉を暴食するので薬剤による防除は困難になる
- ・ 孵化直後の幼虫は巣網を張って群生し、葉脈を残して葉を食べるため、被害葉は透けてみえる。次第に巣網は大きくなり、目につきやすくなり、その後、幼虫は分散してしまう。

以上の特性から 3 段階に分けて防除することが効果的である

- ・ 越冬世代幼虫…5 月下旬～6 月上旬頃発生
- ・ 第 1 世代幼虫…6 月中旬～7 月上旬頃発生
- ・ 第 2 世代幼虫…8 月上旬～9 月上旬頃発生

2. 防除スケジュール（案）

時期	薬剤名	倍率
5 月中下旬	ダイアジノン水和剤 34（有機リン系）	1,000
	フェニックスフロアブル（ジアミド系）	4,000～6,000
	モスピラン顆粒水溶剤（ネオニコチノイド系）	2000～4000
6 月中下旬	スミチオン乳剤（有機リン系）	1,000
	サムコルフロアブル（ジアミド系）	2,500～5,000
	バリアード顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000
8 月上旬	アディオンフロアブル（合成ピレスロイド）	1,500
	ディアナ WDG（ジアミド系）	5,000～10,000
8 月中下旬	スミチオン乳剤（有機リン系）	1,000

- ◆ ディプテレックス乳剤は製造しておりません。農家在庫がある場合のみ使用してください。
- ◆ 有機リン系のダイアジノン水和剤やスミチオン乳剤だけでは、効果が発現しにくい場合もありますので、ジアミド系殺虫剤（フェニックス F やサムコル F 他）も併せて使用すると効果的です。
- ◆ 生育ステージに併せて散布することが基本であるが、遅れると大発生を招くので注意する。また、盛夏期の多発時は薬剤効果が著しく低下するので、できるだけ密度の低い時期から（5 月～）意識して薬剤散布を行うことが重要です。